

管内で死亡事故が発生しました

- ・管内のダム維持作業において、作業員が湖面に落下し死亡する事故が発生しました。
- ・同様のダム湖内作業を行う際は、安全対策に万全を期すよう心がけてください。
- ・水上、水面付近の作業においても、同様の事故発生を防止するため点検を行ってください。

<事故概要>

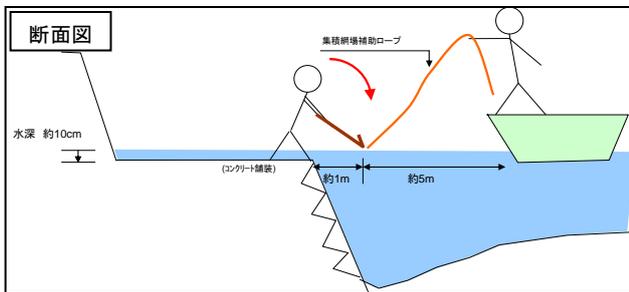
- ・ダム湖の漂着ゴミの集積・陸揚げ作業中、作業員が清掃船から投げられた網を取り損ね、足を滑らせ水中に転落した。別の作業員が浮き輪を投げたが、掴めずに沈んでいった。その後、救急隊員に救出され、病院に搬送されたが死亡が確認された。

<事故原因>

- ・足元が滑りやすい状況であったこと。
- ・集積ゴミのため清掃船が横付け出来ず、ロープが陸に届かなかったこと。
- ・ライフジャケットを着用していなかったこと。

<事故防止対策案>

- ・湖面に転落するおそれのある作業を行う際は、ライフジャケットを着用する。



平成22年度上半期事故発生状況（速報値）

- ・図-1は平成17年度から平成22年度における上半期の管内事故発生累計件数を示したものです。（平成22年度については9月末現在速報値、以下同じ）
- ・今年度（平成22年度）上半期の発生件数は51件となっており、過去5ヶ年と比較すると最も少なく、昨年度からは8件減少しています。
- ・4月、5月、8月は月当りの事故発生件数は少なかったが、6月、7月、9月は例年並みの事故発生件数です。

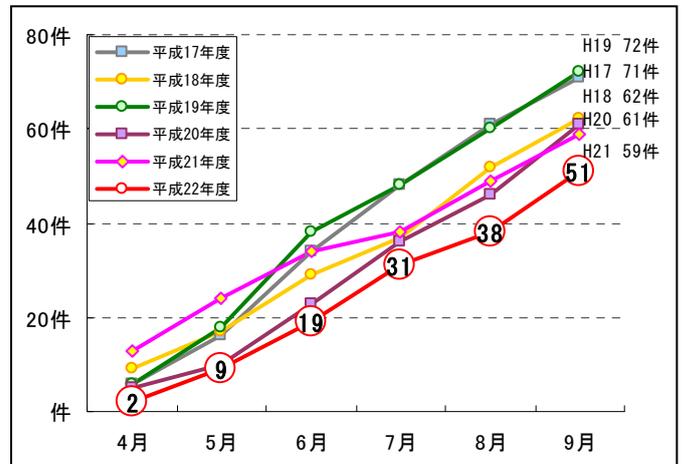


図-1 年度別工事等事故発生件数（累計）

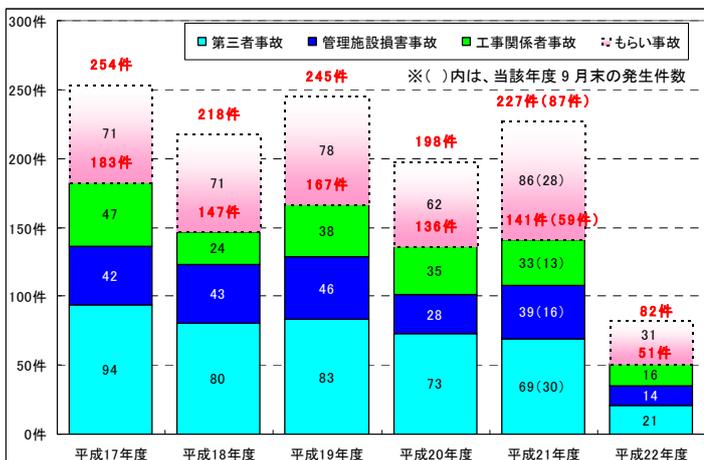


図-2 事故分類別発生件数（年度別）

- ・図-2は事故分類別の発生件数を示したものです。
- ・昨年度同時期と比較すると、第三者事故は9件減少、管理施設損害事故は2件減少しています。
- ・工事関係者事故は3件増加しています。
- ・もらい事故は3件増加しています。
- ・もらい事故を含めた事故発生件数は5件減少しています。

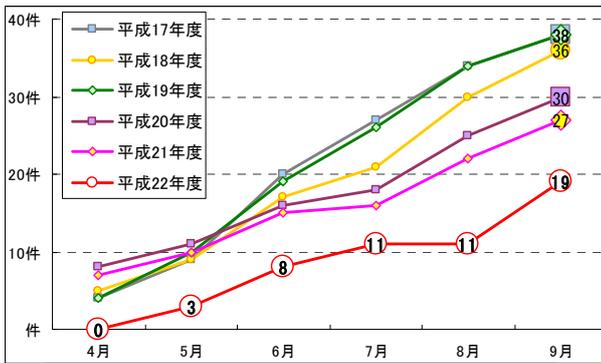


図-3 月別第三者損害（物損）事故発生状況

- ・ 図-4 は公衆災害の発生状況を示したものです。
- ・ 昨年度同時期から架空線事故は5件減少していますが、地下埋設物事故は2件増加し7件となっています。
- ・ また、第三者の人身事故も2件と昨年度（3件）とほぼ同数の状況となっています。
- ・ 一般車との事故は13件から3件へと大幅に減少しています。
- ・ その他の事故については、管理施設損害事故及び第三者物損事故が多く、昨年度同時期より3件多くなっています。

- ・ 図-3 は第三者損害（物損）事故の発生状況を示したものです。
- ・ 例年と比較すると発生件数最も低く推移しており、昨年度からは8件の減少となっています。
- ・ しかし、9月には8件発生（過去5ヶ年9月期で最も多い件数）していますので、今後も各工事において注意してください。

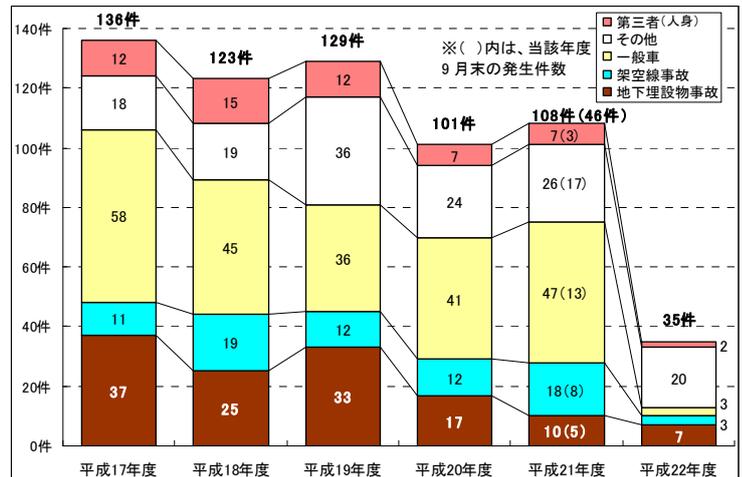


図-4 公衆災害事故発生状況（年度別）

平成22年度事故防止重点対策における事故発生件数（9月末現在）

- ・ 架空線損傷事故 3件（8件）
- ・ 地下埋設物損傷事故 7件（5件）
- ・ 草刈りにおける飛び石事故 2件（1件）
- ・ 足場からの墜落事故 1件（3件）
- ・ 資材・仮設材及び工具の飛来落下事故 1件（4件）
- ・ 重機との接触事故 0件（2件）
- ・ 車両管理業務における事故 7件（10件）

※（ ）内は平成21年度9月末現在の発生件数

- ・ 重点対策7項目のうち、地下埋設物損傷事故と草刈りにおける飛び石事故が昨年度同時期の件数を上回っています。
- ・ 特に地下埋設物損傷事故は、多くが事前調査を怠っていたために発生しており、管理者の台帳確認、試掘調査等を確実にすることが重要です。
- ・ 架空線損傷事故が8→3件、重機との接触事故2→0件と減少しており、下半期も引き続き各現場において注意してください。

平成22年度上半期の事故防止重点対策項目の発生事故

足場からの墜落事故（9月発生）

- ・ 立入禁止区域に入ったため、コンクリートバケットの横引きワイヤーに接触し、足場から墜落した。



- ・ 危険箇所には立入禁止措置（柵、看板）を講じるようにする。

草刈機による事故（6月発生）

- ・ 家屋側に防護ネットを設置しなかったため、2階の窓ガラスを破損した。
- ・ 民家等建物が隣接する箇所の除草作業を行う際は、必ず防護ネットを配置し、飛び石等の事故を防ぐようにする。



地下埋設物損傷事故

（5月発生）

- ・ 重圧管埋設のための掘削作業中、露出していた水道管に礫が当たり、水道管のジョイントを損傷。
- ・ 断水7戸（約1時間20分後復旧）



- ・ 掘削後、速やかに既設水道管について防護を行う必要があった。

架空線切断事故

（7月発生）

- ・ バックホウのブームを上げたまま走行し、架空線を切断した。
- ・ 電柱が倒れ、民家1戸を損傷した。



- ・ 架空線の明示・防護を行うようにする。
- ・ 誘導員を配置する。

資材の落下事故

（7月発生）

- ・ コンパネを上部架台よりロープによって吊り下げていたが、ロープの締め付け具合が不足していたため、ロープが外れて下部の配管を破損した。



- ・ ロープの締めり具合を確認すべきであった。